

ブラッセル日本人学校における新型コロナウイルス感染症への対応について
(第十三報)

秋麗の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。コロナ禍における学校経営は課題が噴出し、また、激しい変化への対応が求められ困難を極めますが、現状における対面授業実現については、保護者の皆様のご理解とご協力あってこそ思っております。

9月28日付日本経済新聞電子版において『対面授業、世界で制約～4億人がなお遠隔学習』の見出しで、「公立学校に児童生徒110万人が在籍し、全米最大規模の学区を抱えるニューヨーク市は、21日（9月）に予定していた対面授業の再開を延期した。延期は2回目で、教職員を十分に確保できなかったためだ。」としています。さらに「国連教育科学児童文化機関（ユネスコ）によると、幼稚園から高校までの全世界の児童生徒約15億人のうち、約9億人が8～10月に学校で授業を受ける予定だった。その中で登校を再開し対面授業を受けられるのは155カ国の約4億3300万人。約4億6700万人は授業がオンラインによる遠隔化、対面との併用になる。」と報道しています。

本校は幸いにして4月22日からオンライン授業を開始し、日本よりかなり先行して授業を進めることができました。さらに、インターネットによる授業と部分登校の並行実施期間を経て、8月31日より通常登校を実施することができました。

日本が授業を再開したのは6月1日で、前年度の3月分の授業を再開した頃（日本は3月2日から休校措置）、本校では6月19日付ブラッセル日本人学校における新型コロナウイルス感染症への対応について（第八報）にて、将来の進路選択にかかる主要教科については、教科等による差はありますが小学部は昨年度比約86%を消化し、中学部は昨年度の約半分を消化しているとお知らせしております。さらに中学部においては、7月1日から0時間目の授業を開始し、現状ではほぼ昨年度の授業進度を回復しています。（日本の授業進度と比べれば小中学部ともに、かなり進んでいます）

さて、ベルギー政府当局の示す6つの黄金律の遵守をベースとしながら、自宅待機期間の短縮など変更点を示した第十二報につづき今回は学級閉鎖や学校閉鎖についてのお知らせをします。

これは、隣国フランスにおいて1日の新規感染者数が32427人（10月17日）、これまでの1日あたり新規感染者数の新記録を更新していることや、他の近隣諸国についても懸念される状況が広がっていることがあります。ベルギーのフランス語共同体エリア9月28日～10月4日の1週間分の最新データにおいて、幼稚園、小中学生（日本における高校生を含む）が1071名、教職員も290名の新規感染者が報告されています。これに伴う自宅待機園児児童生徒が5820名、教職員が422名とあります。このように、当地ベルギーの学校関係においても深刻さが増しており、直近の公衆衛生省発表による感染状況は楽観を許さない状況だと言わざるを得ません。

本校においてはフランス語共同体の示す新型コロナウイルス感染症学校対応ルールのもと、文部科学省の通知、ベルギー国内における現地校やインター校の状況、欧州各国の状況等を総合的に勘案しながら方針を定めていますが、今後も常に関係機関と連携し、正しい情報の収集に努めながら状況の変化に即時対応することを心がけて参ります。これまでの経緯を振り返りながらの現状認識ということで、前書きが長くなりましたが、これからも、ブラッセル日本人学校の関係者として矜持をもって落ち着いて行動していきましょう。

記

1 学級閉鎖や学校閉鎖について

(1) 小学部児童の感染が確認された場合

ア 感染者が確認された場合は学年を閉鎖しインターネットを活用した授業や課題提供（以下オンライン授業）を行います。感染者の兄弟姉妹については出席停止とします。

イ 複数の学年にまたがって感染者が確認された場合は小学部を閉鎖します。感染者が兄弟姉妹の場合でも同じです。

※小学部は休み時間等も学年ごとにエリア分けをして活動していますが、トイレ使用や手洗い場、休み時間の移動等で一緒になる機会があります。児童総数に対する施設設備の状況から完全な分離は難しい現状です。

ウ 閉鎖期間については、新規の感染報告から一週間を基本とします。（コンタクトトレーシングセンターの指示が前提となりますが、基本的に週休日など濃厚接触の可能性がない日数を考慮し決定します。ただし、学校外における習い事等の活動や、兄弟姉妹の関係がありますので個別の案件により対応の違いが出てくる可能性があります。1週間新規感染者が報告されなかったら、登校を再開します）

(2) 中学部生徒の感染が確認された場合

ア 基本的に小学部と同様の対応となります。

イ 中学部は教科担任制です。学級担任はじめ複数の教員と接していますが、学級担任との接触時間に比べ、教科担任との接触時間は短いことと、社会的距離をとっての生活を基本としていることにより教科担任による感染可能性は除外して対応します。

(3) 教職員の感染が確認された場合

ア 学級担任の場合

当該担任の学級について学級閉鎖を行います。当該担任が他クラスの授業を担当している場合がありますが、他クラスについては学級閉鎖を行いません。これは、接触頻度が全く違い（多くとも週4時間程度）、また、基本的には社会的距離を保った授業を行っているからです。

イ 学級担任以外の場合

担任と違い濃厚接触者と見なされる範囲が限定的ですから個別に判断します。

- (4) 小学部と中学部にまたがって感染が確認された場合
ア 小学部と中学部はフロアを分けて、動線、トイレ、手洗い場なども分離した学校生活をしています。中学部で1名、小学部で1名の感染者が報告された場合は、感染者の所属する学年のみの閉鎖となります。
イ 小学部、中学部別に複数の感染者が確認された場合は学校閉鎖を行い、オンライン授業を実施します。
- (5) 全般的な考え方(補足)
第十二報で示しております通り、児童生徒、教職員のみならず保護者や教職員の家族から、新型コロナウイルス感染症が確認された場合でも、コンタクトトレーシングの範囲や発症の時期を勘案し、影響があると思われる集団を、校医であるユングルス医師をはじめとした関係機関と相談のうえ、オンライン授業に切り替えることがあります。

2 新型コロナウイルス感染症への対策について【再確認】

- (1) 児童生徒の感染可能性を最小限にし、健康で安全な学校生活を維持継続するために
ア 小学部と中学部の動線分けをします。
イ マスク着用を義務づけ、手洗い(登下校時や休み時間等の学級外活動のたび)を徹底します。
ウ 常にソーシャルディスタンスを意識する指導をします。
エ 使用教室や児童生徒動線について次亜塩素酸ナトリウム又はアルコールによる消毒をします。
オ 教職員は授業の際はシールド装着のうえ、マスク着用を基本とします。
カ 子供たちが触れる場所を少なくするためにドアや窓を開放し、換気を良くします。(寒さ対策のため、衣服の調節ができるよう指導を徹底します。例年より早く9月末よりショファージュを入れております。さらに現在はかなり寒くなりましたので、授業中は窓を閉め休み時間の換気を徹底しております。)
キ スクールバス乗車中は小学部児童と中学部生徒との社会的距離を確保します。
ク 小学部のお迎えの際、保護者はクラスごと運動場に整列して保護者同士の社会的距離を確保する。児童を迎えたら速やかに下校する。等
- (2) クラスター発生を未然に防ぎ教育活動(全員登校)を維持継続するために
本人又は同居する家族がPCR検査を受けた場合は出席停止とします。このルールはフランス語共同体が示した教育機関における新型コロナ感染症対応事項にはありません。
PCR検査を受けるということは
ア 感染が疑われると医師が判断した場合
イ 感染可能性が高い地域からベルギーへ帰国した場合に検査を義務づけられた場合だからです。
※ベルギーから出国の際、検疫のため義務づけられたPCR検査を除く(陽性なら要報告)
※赤地域からの帰国の場合、自宅待機期間は1週間で、5日目にPCR検査を受けることとなります。この場合は赤地域から帰国し家族と同居した日から当該児童生徒は出席停止となります。ご家族のPCR検査結果が陰性かつご家族と本人ともに風邪症状が見られない場合に登校を再開できます。または、医師から学校登校が認められた場合に登校を再開できます。
ベルギー国政府の許可を受けた通勤の場合(48時間未満の滞在である越境労働者)、感染防止対策を確認したうえで当該児童生徒の登校を認める場合があります。この場合は、証明書のコピーを学校へご提出下さい。

同居する家族のPCR検査結果が陽性であった場合、濃厚接触者である児童生徒が登校を続けていたら、学校に感染が広がる可能性があります。クラスター発生となれば、コンタクトトレーシングも広範囲となり学校を閉じてオンライン授業を行う期間が長期化しかねないこととなります。家族がPCR検査を受けることになった時点で原則出席停止とすれば、たとえ陽性であってもクラスターを最小限に抑えることができます。

インフルエンザ等を含めた患者の増加により病院受診が困難となる状況が予想されます。風邪症状による欠席の場合は出席停止としていますので、必ずその旨を担当にご報告ください。

3 パンデミックレベルオレンジに移行した場【再確認】

- (1) 第十一報2(2)について再確認をお願いします。
(2) 第十一報2(2)イに示しておりますが、現地校より厳しいルールの適用やそのルールを遵守している点、クラスター発生を防ぐための様々な方策を前提とした決定です。
(3) 校外での学習活動が認められませんので、残念ながら小学部修学旅行はじめ、グリーンスクール、オータムスクール、マルシェ見学などの学習活動を中止とします。

これから冬に向けて感染者が一層増加する可能性が指摘され、すでにその兆候が出始めています。感染者報告があり、一時的にオンライン授業に切り替えたとしても、最短のコンタクトトレーシングで学校再開できるように、ブラッセル日本人学校における新型コロナウイルス感染症への対応策を策定しております。現地校に比べると厳しい措置となっておりますが、結果として対面授業を長期間維持するための措置ですので、これまで通りのご理解とご協力を宜しくお願い致します。

本校関係者から新型コロナウイルス感染症をださない努力を皆で協力し取り組んでおりますが、万が一感染した場合は仕方ないことです。その時はお互いに助け合い励まし合おう。それが日本人学校の成員として当たり前のことと思います。必ず学校への連絡をお願い致します。学校は在ベルギー日本国大使館と文部科学省への連絡を行います。

先の見通せない不安な状況が続きます。「
励まし合い、高め合い、志し高く」の精神で乗り切って参りましょう。

○ この件に関してご不明な点は、担当までご連絡ください。

担当 黒川 昌彦 矢野千恵子 電話 日本人学校(02)672-1038